

経営比較分析表（令和6年度決算）

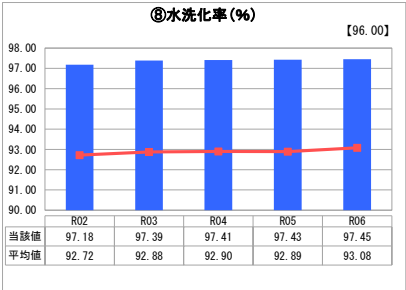
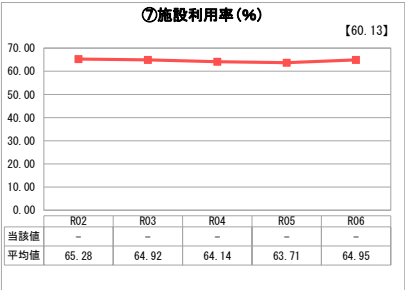
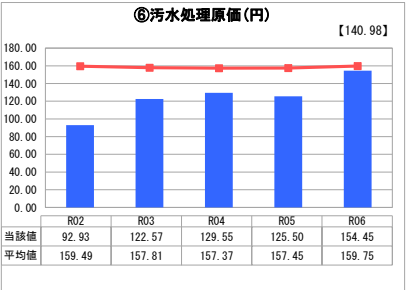
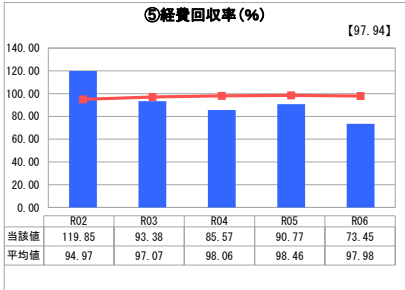
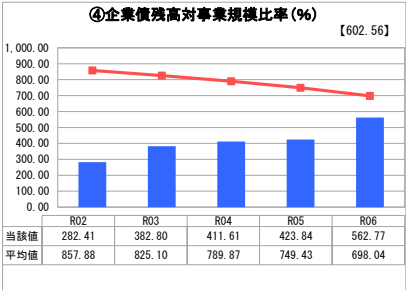
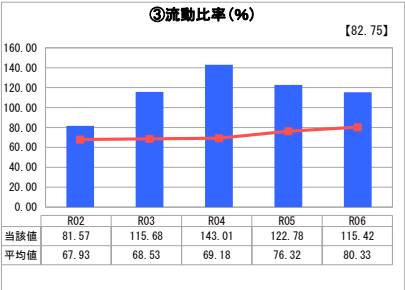
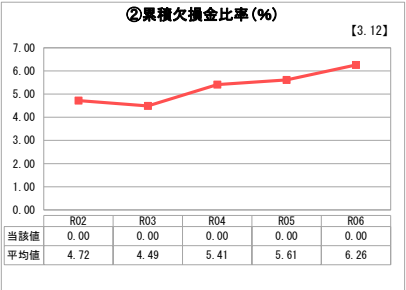
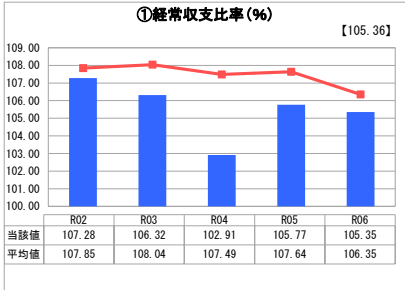
東京都 瑞穂町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	71.58	98.17	84.48	1,600

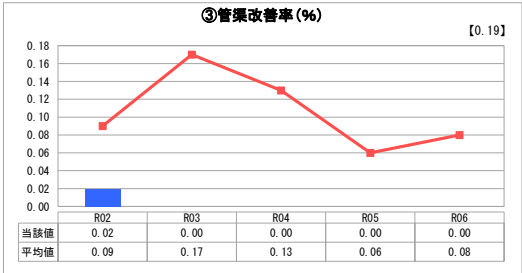
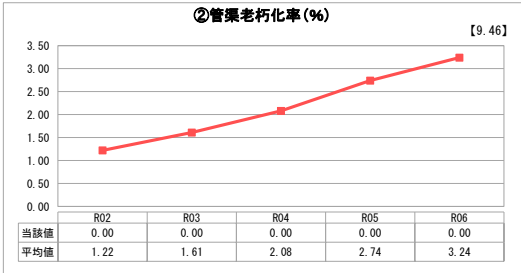
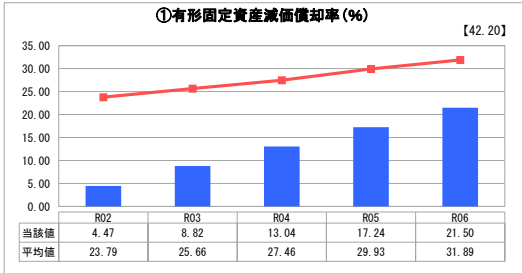
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
32,013	16.85	1,899.88
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
31,380	8.23	3,812.88

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率について、前年度より若干減少したが黒字を示す100%以上は引き続き維持している。平均値と比較し開きが昨年度より少なくなってきた。一般会計繰入金の基準外繰入に依存している状況である。

②流動比率は前年度より下がったものの、100%以上を維持している。しかし、流動資産は減少傾向にあり、流動負債は増加傾向にある。

③企業債残高対事業規模比率について、企業債に依存しすぎず平均値より低い状況であるが、今後、新青梅街道拡幅（モノレール関連）、殿ヶ谷2号雨水幹線など大規模工事の予定があり、財源としては多額の企業債を見込んでいるため、企業債残高は今後も増加傾向が続くことになる。

④経費回収率は前年度より減少し、平均値より下回っている。計画的な維持管理を行うとともに、適正な下水道使用料収入を確保するため下水道使用料を改定するなど対策する必要がある。

⑤汚水処理原価について、前年度より増額し平均値と比較して効率的な汚水処理が実施されているが、更なる有収水量の増加に取り組むとともに、費用の平準化を図り計画的な維持管理を行っていく。

⑥水洗化率について、平均値を上回った状況ではあるが、使用料収入の増加にもつながることから、引き続き接続率の向上に取り組み、水洗化率100%を目指していく。

2. 老朽化の状況について

①法適用から5年目であり、年々増加傾向で平均値に近づいてきている。実際は昭和49年度から布設を始めた管路施設や昭和59年度に運転を開始したポンプ場など相当な年数を経過して更新時期であることは認識している。

②管渠改善率については、管渠の更新等が遅れているため低水準となっている。町が管理する下水道施設の平均経過年数は30年を超える管渠があり、今後はストックマネジメント計画に基づき、計画的に管渠・ポンプ場改善を図っていく必要がある。

全体総括

経営の健全性・効率性について、平均値と比較して概ね健全で効率的な経営を行っているといえる状況である。人口減少による下水道使用料収入の減少や、流域下水道維持管理単価の引き上げなどにより、支出が増加し経営状況が厳しくなる見込みであり、経費回収率を向上させる必要がある。このため、令和7年度に改定する経営戦略の検証結果等を踏まえ、適正な下水道使用料改定を実施し、使用料収入を増加させ財源確保に努め、健全経営を続けていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。